

令和8年産

大崎稲作情報 第1号

令和8年3月13日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL : 0229-91-0726 FAX : 0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

令和8年産水稻の栽培管理のポイント ◆◆◆高温条件に対応した米づくり◆◆◆

- 土づくり(たい肥、深耕、ケイ酸質肥料)で根の活性を登熟期まで高く維持しましょう。
- 田植日から逆算して育苗計画を立て、健苗を育てましょう。
- 中干しや追肥で適切な生育量と葉色の維持に努めましょう。
- 晩期栽培や晩生品種導入により、リスク分散及び品質向上を図りましょう。
- 直播栽培や先進技術等を活用して、コストの削減と生産の効率化を図りましょう。

1 土づくり

気象変動に強く高品質かつ持続的な稲づくりを目指し、たい肥の施用、深耕、土づくり肥料施用等を組み合わせて土づくりを実践しましょう。

(1) たい肥の施用

たい肥は種類によって無機態窒素の放出量や放出パターンが異なります。稲わらたい肥や窒素成分1.5%以下の牛ふんたい肥は土づくり効果が高く、0.6~1t/10aを目安に施用しましょう。連用により生育量が増加した場合は、様子を見て減肥しましょう。豚ふんたい肥や鶏ふんたい肥は肥料的效果が高く、土づくり的效果より有機質肥料としての効果も期待することができます。

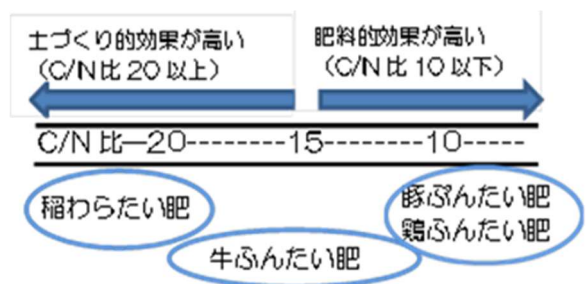


図1 たい肥の種類と効果のイメージ図

(2) 深耕

大型機械の走行等により、土壌がち密化し、透水不良となり根圏の環境が悪化していきます。根を下層まで伸長させ根域を広げ、気候変動時でも地力由来の養分や水分を確保できる、安定した作土層の形成に努めましょう。一度に深く耕すと作土のかく乱が大きく生育が乱れやすくなるため、毎年1cm程度ずつ作土深を深くし、15cmまでを目安に深耕しましょう。

(3) 土づくり肥料

土壌改良は土壌条件に合わせた対策が大切です。ほ場の土壌調査と土壌診断を的確に行い、結果を踏まえた施用を行いましょう。

ケイ酸質肥料：稲体の健全化・耐倒伏性強化・登熟の向上・病虫害被害の軽減

リン酸質肥料：低温時に活着や分けつを促進（冷害対策として効果が高い）

表1 土壌群別の土づくり肥料の目安 (kg/10a)

土づくり肥料	黒ボク土	灰色低地土	グライ土	黒泥・泥炭土
ケイ酸質	120~160	60~100	80~100	120~160
リン酸質	60~120	40~100	40~100	60~120

2 苗づくり

(1) 育苗計画

計画の第1歩は田植時期を決めることです。苗の種類ごとの育苗日数を参考に、田植時期を逆算して種子予措・播種の開始時期を決めましょう。

表2 苗の種類別目標値

項目	稚苗	中苗
育苗日数(日)	20~25	30~35
草丈(cm)	10~15	13~18
葉数(葉)	2.1~2.5	3.5~4.0

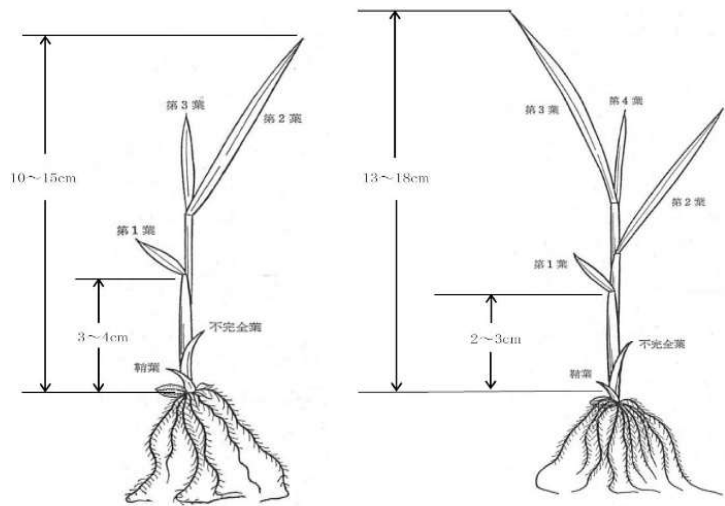


図2 田植適期の稚苗(左)、中苗(右)

(2) 育苗管理の注意点

① 比重選

適正な比重選を行うことで充実した健全な種子を選びましょう。

② 種子消毒

薬剤消毒：種籾と薬液の容量比は1:1以上

温湯消毒：処理温度は63℃・5分間

③ 浸種(水漬け)

積算水温は「ひとめぼれ」で120℃(10℃12日間、15℃8日間程度)を目安とし、水の交換は2~3日ごとに行いましょう。(ササニシキは100℃)

④ 催芽

催芽はハト胸程度を心掛け、伸びすぎに注意しましょう。

⑤ 出芽~硬化

表3 比重選の目安

種類	比重	水10ℓに対する必要量(kg)	
		食塩	硫安
うるち品種	1.13	2.1	2.7
だて正夢、もち品種	1.08	1.2	1.5



正しい状態

伸ばしすぎ

図3 種籾の正しい「ハト胸」状態

表4 育苗様式と管理のポイント

項目	稚苗・加温出芽	稚苗・無加温出芽	中苗・無加温出芽	
播種量(g)	乾籾	160~180	160	100
	催芽籾	200~250	200	125
出芽	<ul style="list-style-type: none"> 芽長は覆土の上1cm程度に揃える(温度管理) 28~30℃48時間 ☆細菌病予防のため30℃を超えない! 	<ul style="list-style-type: none"> 育苗箱の底面と床面は密着するよう設置する 保温シートは隙間がないようべた張りする 第2葉抽出始め頃に除覆する(温度管理) 		
緑化	<ul style="list-style-type: none"> ラブシート等を2~3日べた掛けする(温度管理) 昼25℃、夜10℃ ☆5℃以下の低温時は保温 	<ul style="list-style-type: none"> 出芽まで：昼25℃前後、夜10℃ 出芽後：昼20~25℃、夜10℃ ☆高温(30℃以上)は徒長につながります! ☆5℃以下の低温時は保温 		
硬化	<ul style="list-style-type: none"> かん水1回目は緑化終了後 追肥は葉色が淡く1.5葉期ころN成分1g/箱施用 田植5~7日前にハウス開放(低温時除く)(温度管理) 昼20~25℃、夜10℃ 高温を避ける ☆5℃以下の低温時は保温 	<ul style="list-style-type: none"> 3葉期以降は夜間低温時以外は常時ハウスを開放 追肥は葉色が淡く1.5~2.5葉期ころN成分1g/箱施用(温度管理) 昼25℃以上とならないよう換気 夜10℃前後 ☆5℃以下の低温時は保温 		

⑥プール育苗法

床土量：プール育苗は床土量の節減に努めることができます。床土は厚さ約1cm程度（重量で1.2kg程度）まで節減できます。ただし、人工培土で節減した場合、肥料成分も少なくなるので追肥を行きましょう。

水管理：入水の開始時期は緑化終了頃に床土の高さまで入水しましょう。水位が下がったら苗丈の半分まで入水しましょう。田植え2日前は排水し、苗を運搬しやすいようにしましょう。

温度管理：入水後は昼夜ともハウス側面を開放し、慣行育苗より低めに管理しましょう。

追肥：追肥は希釈溶液をプールに流し込む液肥により省力化を図ることができます。葉色が淡いとき、1.5葉期ころにN成分1g/箱施用しましょう。

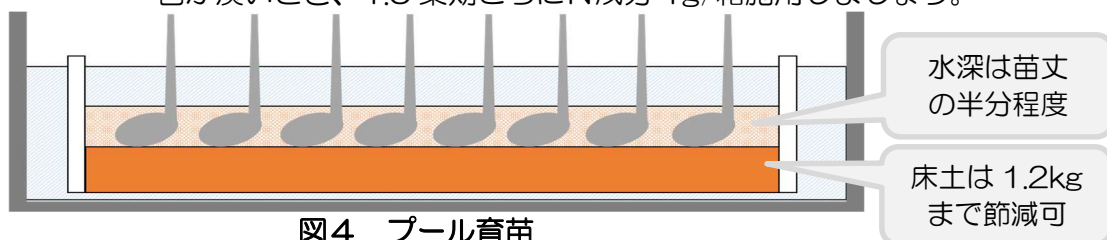


図4 プール育苗

(3) 育苗期の病害防除

育苗期間中の病害は、予防防除が基本です。

病害予防の基本として、①種子の更新、②種子消毒、③育苗資材の消毒を行きましょう。

表5 育苗期の主な病害

主な病害	病徴	耕種的防除法	
イネばか苗病	第1葉鞘と新葉が徒長・淡緑色	指定種子生産ほ種子の使用 塩水選の実施 発病株の早期抜き取り	
もみ枯細菌病	坪枯れ状に発生 新葉が葉鞘を破りねじれて出葉 芯は腐敗し簡単に抜ける	健全種子の使用 塩水選・種子消毒の実施 催芽・出芽時の温度管理、特に出芽温度は 30℃以上にしない 床土は加湿にしない	
苗立枯細菌病	初期はもみ枯細菌病と似ている 芯は腐敗せず抜けない		
苗立枯病	フザリウム属菌	地際部や根が褐変 地際部に白いカビ 籾中心に白～淡紅色のカビ	緑化中は10℃以下にしない 育苗期間中の過乾、加湿を避ける 肥切れ防止
	ピシウム属菌	地際部はやや淡く褐変・水浸状 地際部にカビはなし	緑化期以降は低温にしない
	リゾープス属菌	緑化始めに箱全体に白いカビ 棒状・球状の異常根が見られる こともある	出芽中は32℃以上にしない 窒素の過用を避ける 緑化中に低温・過湿にしない
	トリコデルマ属菌	地際部や籾に青緑色のカビ	床土への保水力が小さい土の不使用 床土の過乾燥を避ける
	<共通>		育苗器具、資材施設の清掃・消毒 種籾に傷籾を使用しない 人工培土の使用 床土はpH5前後 厚播きを避ける 用土は5ℓ/箱程度とする 適切な出芽温度 適切な育苗管理(高温、低温、乾燥、加湿に注意)

イネばか苗病への留意事項

- 比重選の実施
- 温湯消毒は63℃ 5分間の浸漬処理（60℃10分間の処理は防除効果低い）
- 浸種は水温10℃を目安に実施、こまめな水交換（15℃以上は発病率高）
- 催芽は28～30℃程度で実施（26℃前後は感染・増殖）
- 催芽後は直ちに播種する
- 浸種・催芽時は消毒済み種子と未消毒種子を同じ容器で処理しない
- 加温出芽は30℃程度で実施（低温は発病率高）
- 無加温出芽は被覆資材等により保温
- プール育苗は出芽揃い後に常時湛水（床土の上まで）により発病抑制
- 発病苗（徒長・淡緑色）を見つけた場合は速やかに処分
- 「金のいぶき」は「ひとめぼれ」よりもばか苗が発生しやすい。通常の種子消毒処理を実施すれば「金のいぶき」においても極端にばか苗が多発することはありませんが、水稻採種ほ場周辺はイネばか苗病の発生防止にご協力ください。

～ 催芽後はできるだけ早く播種しましょう ～

水稻栽培において、催芽終了後に種子を一定期間保管後播種した場合、化学農薬、温湯浸漬処理したものでばか苗の発生が多くなります。保管期間が長いほどばか苗の発生が多くなり、この場合、脱水後に保管したものより、水漬け状態で保管したものの方がばか苗の発生が多くなります。（「普及に移す技術」第97号）

3 本田管理

(1) 肥培管理

基肥の窒素量は作付品種・地力窒素の多少・前作（復元田※）等を考慮して施用しましょう。

リン酸やカリは土壤への蓄積やかんがい水からの供給もあるので土壤診断を行い、十分な量が蓄積していた場合には減肥を行いましょう。

化成肥料の価格が高騰しており、窒素濃度の高い堆肥を春施用することで、化成肥料を減肥することができます。

表6 品種ごとの施肥量（基肥）目安

品種名	基肥窒素	リン酸	カリ
ひとめぼれ	5	8～10	8～10
ササニシキ	3～4	6～8	6～8
つや姫	5	8～10	8～10
だて正夢	5	8～10	8～10
金のいぶき	5以下	8～10	8～10
まなむすめ	5	8～10	8～10

※復元田での栽培

復元田（転作後水稻初年目）は生育中期以降に地力窒素の吸収が多くなり、過繁茂や下位節間が伸長し倒伏しやすくなる他、玄米タンパク質含有率が高まり食味の低下を招きやすくなります。基肥窒素は無窒素とするか減肥し、生育状況を見ながら追肥で対応しましょう。

(2) 雑草防除

除草剤効果を最大限発揮させるために水もちの良いほ場づくりと除草剤の選択、水管理が重要です。

- 畔塗を実施し、代かきはていねいに行い、水田の表面を均平に仕上げましょう。
- 除草剤ラベルに記載された使用時期、雑草の適用葉齢等を確認し適期に散布しましょう。
- 前年残草した草種を確認し、ノビエ以外の草種の適用葉齢にも注意しましょう。
- 湛水処理除草剤の散布時は十分な湛水深で散布し、散布後は田面が出ないようにします。
- 雑草が残り中後期除草剤を使用する場合も適用草種・使用時期・散布方法を遵守します。

(3) 田植え

活着や初期生育の確保に努めるため、好気象条件下での田植えを行いましょう。

○ 温暖無風日の田植え

× 強風下（風速4m/秒以上）の田植え → 植傷みや浮き苗の発生

特に、西寄りの風は空気が乾燥し強風になりやすいため、植傷みが大きくなります。

(4) 水管理

初期生育を確保するために、水管理を徹底しましょう。田植え後は葉先が2～3cm 出る程度の深水としましょう。

活着後は水深2～3cm の浅水として、水温・地温の上昇を図り、初期生育量の確保に努めましょう。

低温や晩霜の心配がある場合は、水深5～6cm の深水にしましょう。

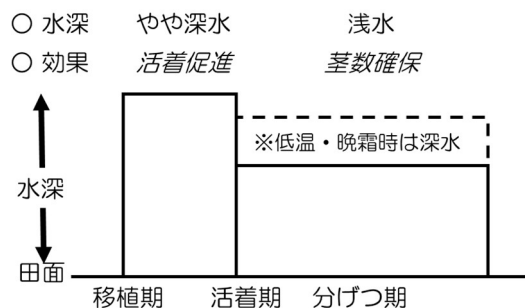


図5 生育初期の水管理

～ 晩期栽培に取り組みましょう ～

高品質米を安定的に生産するためには、出穂期を遅らせる栽培法を導入することで、作期拡大による危険分散を図る必要があります。

晩期栽培とは播種・田植えの時期を遅らせて適正な時期に出穂期を迎えることで障害不稔や高温登熟といった品質低下を回避する栽培方法です。

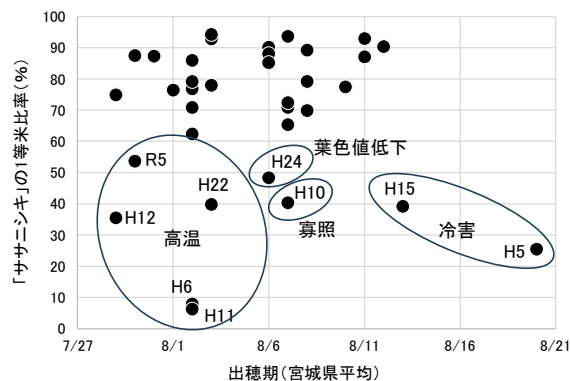


図6 出穂期と「ササニシキ」の1等米比率

晩期栽培に取り組む際は、「田植時期を遅らせる」

のではなく、まず「播種時期を遅らせる」という考え方が重要です。例えば8月中旬の出穂を見込んだ場合、平坦部の稚苗では5月初め頃に播種し、5月20～25日に田植えを行いましょう。

苗の種類と播種日の目安

苗の種類 (葉齢)	乾燥粉 (g)	催芽粉 (g)	田植日	田植日から逆算した播種日の目安	
				加温出芽	無加温出芽
稚苗 (2.1-2.5 葉)	160	200	5月20日	5月4日(田植16日前頃)	4月29日(田植21日前頃)
	～	～	5月25日	5月11日(田植14日前頃)	5月6日(田植19日前頃)
	180	250	5月30日	5月18日(田植12日前頃)	5月13日(田植17日前頃)
中苗 (3.5-4.0 葉)	100	125	5月20日	4月24日(田植26日前頃)	4月19日(田植31日前頃)
	～	～	5月25日	5月1日 (田植24日前頃)	4月26日(田植29日前頃)
	120	160	5月30日	5月8日(田植22日前頃)	5月3日 (田植27日前頃)

< 育苗管理の注意点 >

育苗期間となる5月上・中旬は、慣行の4月の育苗よりも平均気温がかなり高く、日射も強いので、育苗ハウス内が高温になりやすくなります。そのため、ハウス内の温度管理に十分に注意しましょう。

4 低コスト省力稲作技術について

(1) 高密度播種育苗

高密度播種育苗は、1箱あたりの播種量を多くし、移植時のかき取り幅を小さくすることで、移植時に必要な苗箱数を減らす技術であり、移植面積当たりの使用苗箱数の削減により春作業の低コスト・省力化技術です。ただし、慣行稚苗育苗と比べ徒長しやすく、苗の老化が早くなるので注意が必要です。

表8 高密度播種育苗の苗質の目標値と育苗日数の目安

項目	目標値	目標値を達成するための条件	育苗日数
苗長	10～15cm	10cmに達する有効積算気温27.4℃	14～20日
マット強度	2kgf以上	育苗日数14日以内	
老化程度	1未満	育苗日数20日以内	

高密度播種苗（乾粃 220～300g/箱）では稚苗に比べ、移植時の欠株が発生しやすく、播種量が多くなるほど欠株率が高まります。播種量 300g では高密度播種苗用の幅狭爪を使用すれば、欠株率を低減できます。

箱施用剤を使用する際は、高密度に播種する場合、箱当たり使用量が異なるものがありますので、箱施用剤の袋の記載事項をよく確認し、適切に使用して下さい。

(2) 直播栽培

直播栽培は春作業の省力化・移植栽培との作期分散の他、晩期栽培・晩生品種と同様に、出穂期が遅れるために、穂発芽粒、胴割粒、白未熟粒等の軽減により、品質向上を図ることができます。

直播栽培は大きく分けて、乾田状態で播種する乾田直播と湛水状態で播種する湛水直播の2種類があります。県内では乾田直播の取組面積が拡大しています。

表9 直播栽培の種類と特徴

種類	メリット	デメリット
乾田直播	比較的倒伏しにくい 鳥害に遭いにくい 代かきが不要	作業が天候に左右される 乾田期の雑草発生量が多い
湛水直播	土壌、気候の面での適用範囲が広い 降雨に制約されない	鳥害に遭いやすい 倒伏しやすい 種子のコーティングが必要

※農薬登録上の作物名は「移植水稻」とは異なり、移植栽培で使用できても、「直播水稻」では使用できない農薬があることに注意が必要です。特に移植栽培で漏生イネ・雑草イネ対策として使用できる除草剤は直播栽培では使用できないので、**品種が切り替わるほ場での直播栽培は避ける必要があります。**

イ 乾田直播栽培 プラウ耕鎮圧体系

農研機構が開発した「プラウ耕鎮圧体系」は、レーザーレベラー(均平作業)、スタブルカルチ(耕起)、バーチカルハロー(碎土・整地)、グレーンドリル(播種)、ケンブリッジローラー(鎮圧)等を用いる高速作業体系です。播種床造成や播種後にケンブリッジローラーでしっかり鎮圧することで、安定した苗立ちが得られ、漏水対策になります。

ただし、苗立ちまではほ場を畑状態に維持する必要があるため、播種前に明渠や弾丸暗渠などの排水対策を徹底する必要があります。また、畦畔からの漏水防止作業も行う必要があります。



写真 スタブルカルチ（左）、ケンブリッジローラー（中）、グレーンドリル（右）

スリップローラーシーダー

松山（株）ニプロが開発した耕起・播種・鎮圧が一
旦となったアタッチメント。後方に配置された「強制
駆動スリップローラー」により、土の付着を抑えなが
ら一定の深さで種をまくことができます。施肥ホッパ
ー付の仕様であれば施肥も同時に行えます。モーター
駆動のシーダーを搭載しており、少し湿り気のあるほ
場でも施肥・播種が可能です。播種前鎮圧ができない
ので、復元田等、水もちの悪いほ場では湛水後の漏水
に注意する必要があります。



写真 スリップローラーシーダー
（施肥部なし）

□ 湛水直播栽培

主要なコーティング方式の特徴は表 10 のとおりです。

表 10 湛水直播栽培のコーティング別の特徴

種類	鉄	カルパー	べんがらモリブデン
資材	数種類を使用	1種類、価格が安い	2種類、価格が高い
被覆種子のイメージ	還元鉄＋焼石膏 仕上石膏 浸種粉 被覆方法難（長時間）	カルパー＋ タチガレエースM 催芽粉 被覆方法難	酸化鉄＋モリブデン＋ ポリビニルアルコール （PVA） 浸種or催芽粉 被覆方法簡単
コーティング後の保存	低温庫で長期保存可	低温庫で約1週間	浸種種子は長期保存可 催芽種子は低温庫で約1週間
代かき	表面を硬くする	表面を柔らかくする	表面を柔らかくする
播種	表面播種	土中播種	土中播種
出芽方法	湛水出芽 湛水後浅水出芽	落水出芽	湛水後落水出芽 落水出芽
鳥害	強い	やや弱い	弱い
倒伏	易	難	難

これらのほかに、シンジェンタジャパン株式会社が開発した、酸素供給剤、殺菌剤及び殺虫剤のコーティング処理済種子「リゾケアXL」の利用も拡大しています。当商品を用いた土中播種では、播種後の落水管理が不要となり、苗立ち向上や残草抑制の効果が期待できるとされています（<https://www.risocare.jp/>参照）。

東北地方3か月予報（3月～5月までの天候見通し）

令和8年2月24日 仙台管区气象台発表（抜粋）

<予報のポイント>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は、高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率（%）>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
【気温】東北太平洋側	20	30	50	高い見込み
【降水量】東北太平洋側	30	30	40	ほぼ平年並の見込み

東北地方1か月予報（3月14日から4月13日までの天候見通し）

令和8年3月12日 仙台管区气象台発表（抜粋）

<特に注意を要する事項> 東北太平洋側

向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みで、少雨の状態が続く所もあるでしょう。

<向こう1か月の天候> 東北太平洋側

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の階級別出現確率（%）>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【平均気温】東北地方太平洋側	10	20	70
【降水量】東北地方太平洋側	40	40	20
【日照時間】東北地方太平洋側	20	40	40

<週別の平均気温の階級別出現確率（%）>

	低い	平年並	高い
1週目 東北地方太平洋側	10	40	50
2週目 東北地方太平洋側	10	10	80
3～4週目 東北地方太平洋側	10	30	60

◆◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中（3月1日～6月30日）◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、安全対策として、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用の徹底、③安全フレーム・キャブ付きトラクターの使用を心がけましょう。

「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

